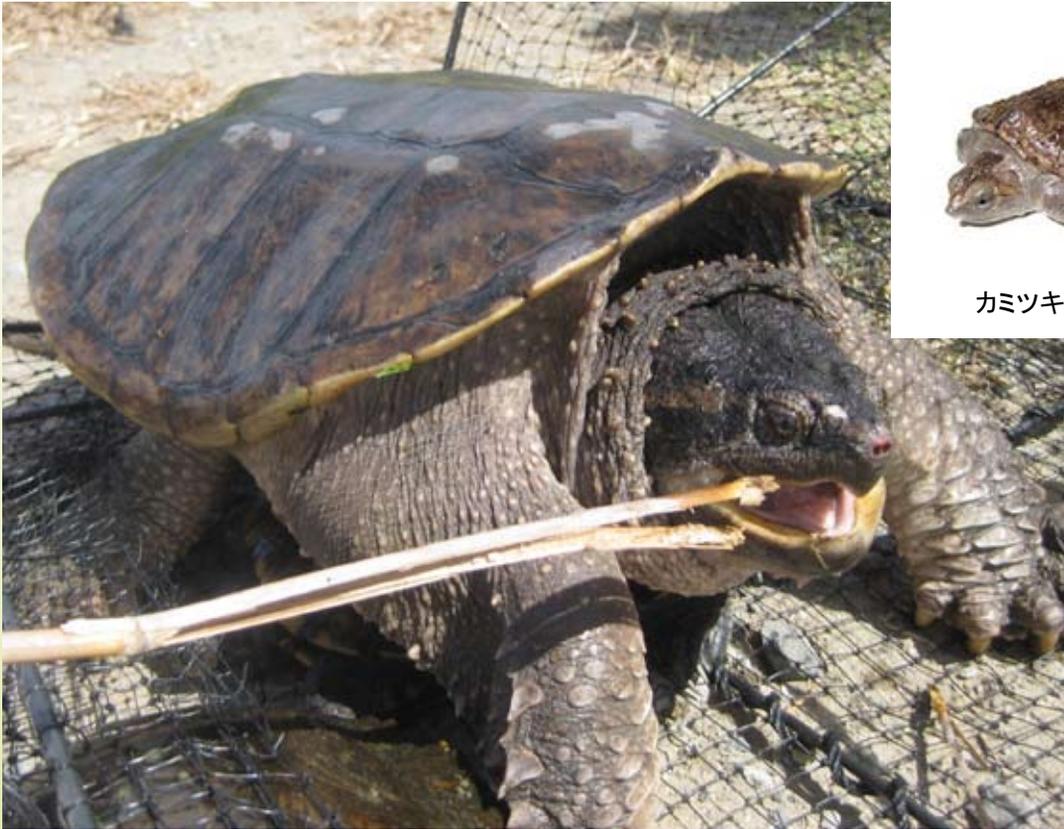


カミツキガメ

加藤英明



カミツキガメの幼体

カニ網に混入したカミツキガメ

カミツキガメに要注意！静岡県の河川で、カミツキガメが目撃・捕獲されています。さらに2012年には、県内で初めて野外におけるカミツキガメの繁殖が確認されました。

カミツキガメは、カナダ南部からアメリカ合衆国南東部まで自然分布する大型のカメで、甲長は最大で約50cm、体重は38キログラムに成長します。食性は雑食で、カニやエビなどの甲殻類から魚類、鳥類、哺乳類、植物まで何でも食べます。過去に日本には、主にアメリカ合衆国からカミツキガメの幼体が数多く輸入されました。その数は推定20万匹ほどで、ペットとして販売され飼育されていました。しかし、成長して飼いきれなくなったカミツキガメが捨てられることが多々ありました。さらに2005年に本種が特定外来生物に指定され、輸入や飼育、販売が規制されると、飼育個体の姿はどこかに消えました。これらはきっと、野外に放されたのでしょう。現在、カミツキガメは、全国各地の野外で確認されています。

カミツキガメは耐寒性があり、氷が張る環境でも水中で越冬します。静岡県の野外で冬を越すことができ、それは幼体でも同様です。筆者の調査では、2010年から2011年までの間に、狩野川とその支流でカミツキガメ7個体を確認しました。その中には推定年齢0歳と3歳の幼体が確認でき、調査地域では以前から繁殖していたようです。解剖による生殖腺の確認では、メスは一年に1度、6月頃に産卵を行うことが明らかになりました。産卵数は30個ほどです。

カミツキガメは夜行性で、日が沈むと水底を徘徊して餌を探します。日本のカメとは異なり日光浴をしないため、日昼に目撃されることがほとんどありません。そのため、私たちの身近にある水辺にカミツキガメが潜んでいても気が付かず、繁殖している場合もあります。カミツキガメは臆病な動物で、水中で人を襲うことはありません。しかし、隠れているカミツキガメや産卵期に上陸したカミツキガメに不用意に近づくと、咬みつかれることがあります。カミツキガメは人体に危害を加える恐れがあり、また様々な動植物を食べてしまうため、生態系にも悪影響を及ぼします。県内には、過去に野外に放された個体が数多く生息していると考えられ、それらの繁殖と分布の拡大が危惧されます。